

地域推薦枠医学生 夏季離島実習レポート

8月19日から8月24日の間、奄美大島に夏季離島実習に行かせていただきました。行きはフェリーで奄美大島に向かいましたが、同じ鹿児島県であるのに、本土とこんなにも離れているのだということを実感することができました。

1日目、4日目は大和村国民健康保険大和診療所にて実習を行いました。午前中は、外来診療、午後は訪問診療を見学させていただきました。まだ、医学的な知識が少なく、分からないことは多かったのですが、その中で一番勉強になったと感じたことは、地域医療に携わる医師としての在り方でした。先生は、患者さんの家族関係や交友関係、地域の行事のことなどを詳しく把握していて、時には方言を交えながら患者さんとお話しされているのが印象的で、将来、様々な地域で働く私たちに求められていることは、単に地域医療に携わる医師としてだけでなく、地域の住民の一人として、その地域に溶け込むことなのではないかと感じました。

3日目と最終日は、県立大島病院での実習を行いました。初めて見るドクターヘリは、想像以上に迫力があり、ドクターヘリに込められた住民の期待が伝わってくるようでした。また、運航管理室の見学もさせていただき、救命医療を支えるのは医師や看護師だけではないということを学ぶことができ、そこで働く方々の緊張感や責任感を感じられる良い機会になったと思います。

地域診断実習では、マングローブパークでのカヌー体験、宮古崎、国直海岸など奄美の大自然を感じられるたくさんの場所を訪れることができ、奄美の郷土料理である鶏飯や、トビンチャ、大和村の名産であるスモモを使ったアイスなど、奄美の食文化にも触れることができました。離島に行くのは今回の実習が初めてでしたが、奄美の医療現場について学ぶことはもちろん、奄美での生活や雰囲気も体感することができ、有意義な実習になったと思います。

【俳句】

握る手に 思いを込めて 守りゆく

実習を振り返り、一番印象に残っている場面は、訪問診療を見学した際の、患者さんが先生に対して、ずっと大和村にいてほしい存在、大和村から逃がさないとおっしゃっていた場面です。患者さんの先生への信頼は、先生の地域医療に対する熱い思いがあるからではないかと感じ、私も将来、地域の人に愛され、信頼される医師になりたいという気持ちを込めて、この句を詠みました。

奄美（大和診療所）コース

ずっと昔から訪れてみたかった奄美大島。奄美大島に行くのも、長時間船に乗るのも初めてで、今回の離島実習を心待ちにしていました。鹿児島新港を18時に出発し、名瀬に到着したのは早朝5時。台風の影響により船はかなり揺れ、船中ではあまりよく眠れなかったのもいい思い出です。1日目は大和診療所に実習に行きました。県立大島病院からは車で山道を1時間ほどかかる、高齢化率約40パーセントの村です。午前は診療見学をしました。内科も外科も診ることのできる医師の姿は、私の理想の医師像そのものでした。昼食は診療所の隣の先生のご自宅でカレーライスをいただきました。先生の気遣いと腰の軽さに人としての温かさや偉大さを感じました。午後は訪問診療に同行させていただきました。特に印象に残っていることが二つあります。一つ目は、誕生日が近い患者さんのために変装をして、“上を向いて歩こう”の弾き語りをサプライズでプレゼントしたことです。患者さんもそのご家族も大変喜ばれており、先生と地域の方の距離の近さを感じました。二つ目は、初めてポリオの患者さんにお会いしたことです。ワクチン接種等で耳にはしたことがあるものの、今では珍しい病気なので、貴重な経験になりました。2日目は今夏最大の台風により、宿泊先である県病院に籠りました。夜には停電も起こり、10年ぶりくらいの経験でした。3日目は大和診療所での実習でしたが、前日の台風の影響により予告なしの断水や携帯電話も圏外で、頻りに台風が接近する離島の大変さを学びました。午後は地域診断実習で、国直海岸や大河ドラマ“西郷どん”のオープニングにも出てくる宮古崎を訪れました。大和村の名産品であるすももがとても美味しかったです。4日目は県立大島病院で産婦人科での実習でした。沖永良部からドクターヘリでの搬送もあり、離島ならではの医療を学ぶことができました。5日目は午前は病院見学で、ドクターヘリを初めてあんなに近くで見ました。今までドラマでしか見たことのなかったドクターヘリの実物は本当にかっこよかったです。午後は地域診断実習で土盛海岸や奄美パーク、マングローブパークに行きました。奄美が世界に誇る美しい自然に触れることができ、いい体験になりました。5日間の離島実習はとても有意義な時間を過ごすことができ、たくさんの奄美の魅力に気づくことができ、将来また帰ってきたい、そう思える場所でした。

「逃さない 大和の村の 守り神」

訪問診療の中で、患者さんとそのご家族が口にした言葉「先生は大和村から逃がしません」。この言葉から伺えるのは、地域の方が医師に寄せる絶大なる信頼。いつか自分もそんなふうになってもらえるような地域に根ざした医者になりたいなという思いも込めて、この句を詠みました。